

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2011年10月)

発表日 2011年12月20日(火)

～当面横ばい圏内の動きが続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 大塚 崇広

T E L : 03-5221-4525

(単位: %)

		全産業活動指数		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
11	1-3月	▲ 1.9	▲ 0.5	▲ 1.4	▲ 0.1	▲ 2.0	▲ 2.5	0.2	▲ 0.4	2.7	1.6
	4-6月	▲ 0.4	▲ 1.7	0.0	▲ 0.5	▲ 4.0	▲ 6.8	0.7	0.5	▲ 7.2	▲ 4.8
	7-9月	2.0	▲ 0.4	1.1	▲ 0.1	4.3	▲ 2.1	▲ 0.1	0.5	3.8	▲ 2.9
11	1月	▲ 0.5	1.4	▲ 0.1	1.1	0.0	4.6	0.0	▲ 0.5	2.3	1.3
	2月	0.9	2.0	0.8	2.0	1.8	2.9	0.2	▲ 0.3	6.3	4.4
	3月	▲ 6.4	▲ 4.5	▲ 5.9	▲ 3.1	▲ 15.5	▲ 13.1	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 8.6	▲ 1.1
	4月	1.7	▲ 4.0	2.7	▲ 2.3	1.6	▲ 13.6	▲ 0.1	0.4	▲ 5.7	▲ 3.8
	5月	2.0	▲ 1.3	0.9	▲ 0.2	6.2	▲ 5.5	1.0	0.1	3.7	▲ 6.0
	6月	2.2	0.2	1.9	0.9	3.8	▲ 1.7	0.3	1.1	▲ 0.3	▲ 4.5
	7月	0.4	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 0.2	0.4	▲ 3.0	▲ 0.6	1.2	0.8	▲ 4.5
	8月	▲ 0.3	0.2	0.1	0.6	0.6	0.4	0.0	▲ 0.3	1.8	▲ 4.2
	9月	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 0.4	0.0	▲ 3.3	▲ 3.3	▲ 0.1	0.4	2.3	▲ 0.1
	10月	0.8	0.2	0.6	0.5	2.2	0.1	0.2	0.7	▲ 3.9	▲ 4.0

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 10月の全産業活動指数は3ヶ月ぶりの前月比プラス

10月の全産業活動指数は前月比+0.8%と、ほぼコンセンサス（同：+1.0%、レンジ：同+0.7%～+1.3%）通りの結果となった。

内訳をみると、プラスに寄与したのは第3次産業活動指数（前月比寄与度+0.40%ポイント）、鉱工業生産指数（同+0.39%ポイント）、公務等活動指数（同+0.02%ポイント）であった。一方で、マイナスに寄与したのは建設業活動指数（同▲0.18%ポイント）であった。

自動車の増産などにより鉱工業生産指数が上昇したことに加え、天候が9月に比べ良好であったことなどから第3次産業指数も上昇したことを背景に、全産業活動指数は3ヶ月ぶりに前月比プラスとなった。

○ 鉱工業生産指数、第3次産業活動指数は上昇も、基調としては横ばい圏内の動き

10月の全産業活動指数の内訳を見ると、鉱工業生産指数は前月比+2.2%と2ヶ月ぶりに前月比プラスとなった。輸送機械において、国内外への受注残に対応するための増産が続いたことが主因と見られる。一方で、情報通信機械はテレビの駆け込み需要の反動の影響などにより3ヶ月連続で前月比マイナスとなったことに加え、世界的なPC需要の低迷による在庫調整を背景に2ヶ月連続で電子・デバイス製品も前月比マイナスとなった。また、全体で見ても、前月の落ち込みと均してみれば横ばい圏内での推移にとどまっており、生産活動が基調として上向いたとは考え難い。

第3次産業活動指数は前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに前月比プラスとなった。情報通信業が前月比プラスに大きく寄与したが、9月の大幅減の後であり、10月はその反動である可能性が高い。また、小売業なども前月比プラスに寄与したが、これは台風の悪影響が響いた9月に対し10月は天候が良好であったことが主因であると考えられる。全体としては、鉱工業生産指数と同様に、前月の落ち込みと均してみれば横ばい圏内の動きにとどまっており、サービス業が基調として上向いたとは言えない。

一方で、建設業活動指数は前月比▲3.9%と4ヶ月ぶりに前月比マイナスとなった。震災の影響で延期されていた建設工事が一巡したことなどが背景にあると考えられる。ただし、公共投資の先行指標である公共

工事前払金保証統計が足元で増加していることなどを踏まえると、先行きは増加が期待できるであろう。

○ 需要項目別では、10月は消費、投資ともに前月比プラスも先行きは期待薄

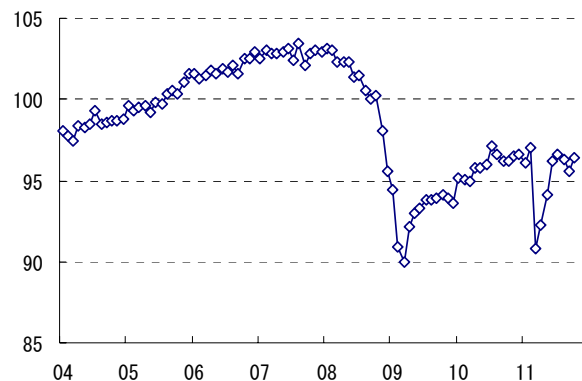
同日発表された全産業供給指数は前月比+0.6%であった。需要項目別にみると、消費が前月比+1.0%、投資が同+0.5%、輸出が同▲0.6%、輸入が同+5.9%となった。消費は3ヶ月ぶりの前月比プラスとなったものの、天候の要因が大きく、基調として消費が上向いたとは言えない。消費者マインドを表す消費者態度指数は、景気の先行き不透明感から震災以前の水準には戻り切らず、このところはほぼ横ばいの動きとなっている。投資は前月比プラスとなったものの、12月の日銀短観によれば大企業・製造業では2011年度の設備投資計画が下方修正されており、先行きはあまり期待できないであろう。輸出は海外経済の減速や高止まりする円相場の影響で引き続き横ばい圏内で推移し、輸入は燃料コスト増加の影響から引き続き高い水準で推移することが見込まれる。

○ 先行きは横ばい圏内の動きとなる見込み

以上のように、10月の全産業活動指数は3ヶ月ぶりに前月比プラスとなったものの、前月の落ち込みと均してみればほぼ横ばいでの推移であり、基調として上向いたとは考えにくい。先行きも横ばい圏内での推移が続こう。

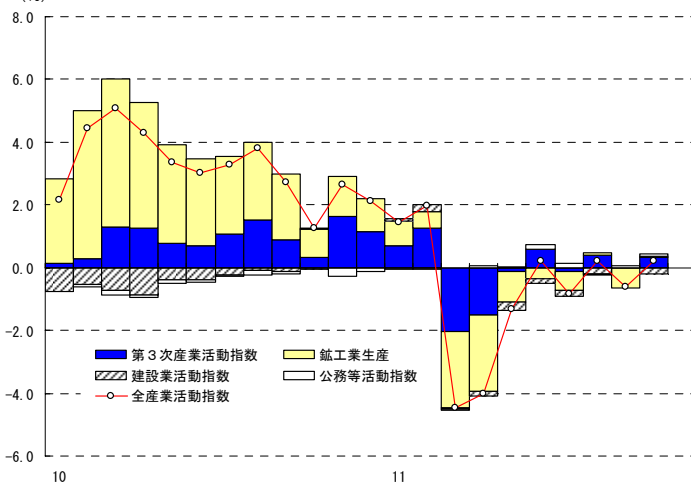
輸出が海外経済の減速や円高などを背景に当面足踏み状態となると予想されることから、鉱工業生産は横ばい圏内での動きとなる可能性が高い。また、こうした動きを反映して、第3次産業活動指数における企業部門も低調に推移することが見込まれることに加え、前述の消費者マインドの動向から第3次産業活動指数における家計部門も期待できないであろう。したがって、全産業活動指数は引き続き横ばい圏内での推移が見込まれる。

2005年=100 全産業活動指数（季調値）



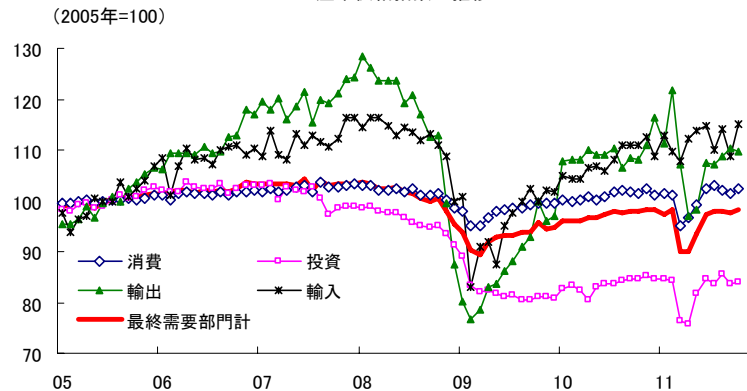
(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

(%) 全産業活動指数前年比寄与度分解



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

全産業供給指数の推移



(出所) 経済産業省「全産業供給指数」